

# タスク・シフト／シェア最前線

## 序 文

熊本大学病院 医療技術部 診療放射線技術部門

池田龍二

今回、「タスク・シフト／シェア最前線」というテーマで、診療放射線技師に拡大された業務を実際に開始している施設に情報提供をお願いした。

はじめに、現状の制度と背景を正確に把握する事が重要であり、日本診療放射線技師会理事の、東京北医療センター 菊地克彦先生に、概要を説明頂いた。法令改正の経緯から、研修の概要、推進のための留意点が示されている。各施設の状況を確認する前に今一度ご確認頂きたい。

次に、飯塚市立病院 宮田憲明先生、平山ハートクリニック 田上真之介先生に、施設全体としてのタスク・シフト／シェアの取り組みをご紹介頂いた。さらに、埼玉県済生会川口総合病院 城處洋輔先生から、CT・MRIの静脈確保を中心に、私の方から、核医学部門における静脈確保からRI投与における導入から運用、現在の課題等を紹介した。また、血管撮影領域における取り組みを秋田県立循環器・脳脊髄センター 加藤守先生に、下部消化管領域における取り組みを館林記念病院 岩宗裕人先生から、静脈確保とは異なった視点で導入後の成果から、今後の課題等をご紹介頂いた。

最後に、看護師からの視点として、本院の村上美智代看護師長、草野裕美副看護師長に抜針・止血から、静脈確保のタスク・シフト／シェアを放射線部門に導入する際のタイムライン、そして、成果・課題をスタッフからのアンケート結果を踏まえてご紹介頂いた。各施設の導入までの経緯や課題、導入後の効果、今後の検討課題等、実際に導入して見えてくる問題等をご紹介頂いた。これから準備する施設においては、是非とも各施設の状況をご確認頂き、自施設での導入の参考にして頂きたい。

本企画全体を通して、タスク・シフト／シェアを推進するためには、組織の理解と協力が不可欠であり、多職種連携とコミュニケーションの重要性を本内容からも強く感じた。本企画が皆様の施設のタスク・シフト／シェア推進の一助となれば幸いである。